

もめづくり 若人

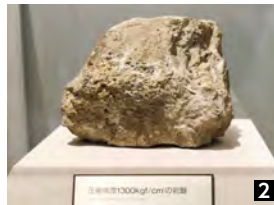
Vol.22

問い合わせ 本商工復興課
☎ 0287(62)7130

1海底の岩盤を掘り進める様子を再現した船の模型。先端にはカッターヘッドと呼ばれる巨大なドリルがついている **2**スエズ運河拡張工事で行く手を阻んだ極めて硬い岩盤 **3**実際の工事で使い終わった後のカッターヘッド。あまりにも岩盤が硬いため、20分ほどで摩耗してしまう **4**敷地内にある22個のピラミッドと20個のピット(くぼみ)。ピラミッドは自己を成長させ、さらなる高みを目指すことを示し、ピットは何事も深く掘り下げ、探求することを意味している



チュ ドウック タンさん 土木技術開発部 海岸海洋チーム 博士(工学) 入社4年目



海の災害から人々の命や財産を守りたい

地震や台風が頻発するわが国において、海洋土木から陸上土木まで社会インフラ整備に大きく貢献してきた五洋建設。事業展開は国内にとどまらず、アジア各国などにも進出し、積極的な人材交流を行っています。

海洋土木研究のために日本へ

2011年に日本で起きた東日本大震災は、ベトナムでも毎日のように報道され、その映像は今でも鮮明に覚えています。ベトナムにおいても台風や高波の被害は深刻な問題となっており、海洋に関わる土木・建設技術の勉強をしたいと思い、妻と共に日本へ来ることを決意しました。

より安全な護岸整備を目指して

大阪大学での3年間の勉強を経て、五洋建設に入社し4年目になります。私の業務は、海岸堤防や港湾整備などの社会基盤構造物が、高波や高潮、津波がきても安全かどうかを実験や数値解析を用いて検討することです。また、いろいろなデータを用いて、来襲する高波や高潮などの推定をすることも行います。東日本大震災や、最近頻発する高潮や河川氾濫による水害などから市民の安全を守る社会インフラの検討を行うことは、建設業に携わるものと

して重要な業務だと感じています。この研究所にはこれらの検討を行うための設備が整っており、毎日、充実した日々を送っています。

自分のアイデアを生かし世界に貢献

研究者として、新しいものを開発することが何より大切であると考えます。自分のアイデアを上司やチームのみんなに承認してもらえたときや、研究成果をお客様に満足していただけたときがとてうれしいです。これからの目標は、海外の海洋技術や海洋以外の土木技術についても勉強し、自分の知識の幅を広げること。併せて、AIの導入についても考えていかなければなりません。国内だけではなく、海外のプロジェクトもいくつも担っている五洋建設。世界の最前線の技術を有する会社の一員として働いていることに誇りを持ち、世界に貢献できる立派な研究者を目指したいと思っています。



五洋建設株式会社
技術研究所(四区町1534-1)
【業種】総合建設業
【業務の内容】建設工事に関わる技術の開発・研究、現場支援
【問い合わせ】☎0287(39)2100